

産業能率大学通教校友会 新潟支部

会報誌 産能にいがた



第2号

2014年11月発行

文責:新潟支部事務局長 関根芳美

TEL0258-83-3048

Fax0258-83-3049

メール niigata@sanno-uda.jp

初イベント「卒業を祝う会」を開催しました!

新潟支部設立後の初イベントとして、「卒業を祝う会」を6月に開催しました。産能にいがたの創刊号で告知をしましたが、「H26年3月卒業生の参加が無かったらどうしよう…」という不安がよぎっていました。

しかし、心配ご無用。長岡市在住の中村正樹さんと、なんと!佐渡市在住の本間進さんの参加連絡を受け、ホッと胸をなでおろしました。ふと気付くと、そもそも会員同士ゆっくり顔を合わせて話すのも初めての機会。新しい出逢いにワクワクしながら当日を迎えました。

桐生達子支部長の挨拶の後、卒業生のお2人に「学位記」授与を行い、一言ずつご挨拶いただきました。ちなみに、写真の「学位記」は、中村さんをお願いして、このためにご持参いただいたものです。



お2人の卒業までの経緯は寄稿をご覧ください。

乾杯の後、集まったメンバー全員の自己紹介しつつ、杯を重ねました。自己紹介では「これから就活と婚活を頑張ります!」や「新しい農業ビジネスの展開を目指します!」とか「現在、大学院で学んでいます」…などなどエネルギッシュな発言が次々に飛び出し、改めて新潟支部会員の人財の豊かさに驚かされました。

その後もお互いの在学中の苦労話や仕事や趣味の話、今後の展望などで話は尽きず、人数以上の盛り上がりとなりました。

合写真をはじめ、会の様子を写真でお伝えできたのは、新発田市からカメラ持参で参加いただいた清野福男さんのお陰です。



会も終わりに近づき、ささやかではありましたが支部から「花束の贈呈」をしました。正直言います、設立初年度である今年は諸事情から支部会計の厳しい状況が続いております。このような花束の贈呈が出来たのは、皆様からの年会費の振込があったからこそです。心より感謝申し上げます。

「卒業を祝う会」でのちょっとした話

3月の設立総会の時、新潟市在住の若林良彦様はご欠席でしたが、当日祝電を送っていただきました。電報の中には、写真の「お祝いのコースター」が入っていました。そこで、今回の「卒業祝う会」の席で使わせていただきました。皆さん、とても喜んで最後はそれぞれ記念に持ち帰りました。若林さん、お心遣いありがとうございました!



卒業生からの寄稿

『産業能率大学通信教育課程を卒業して』

長岡市 中村 正樹



私は、平成21年10月に産業能率大学通信教育課程産業カウンセラーコースに1年次入学し、今年の3月に無事卒業することができました。

入学した当時は、仕事の関係で、上越市(高田)に在住していましたが、2年ほど前に地元の長岡市に13年ぶりに戻って来ました。

入学した理由は、仕事をしながらでも学びやすいシステムが構築されている本学で、当時興味があった経営学、経済学、心理学およびカウンセリングなどを学び、大学卒業の資格を取得したいと思ったからです。また、マネジメントや心理学関係の知識・スキルを修得し、中々思い通りにいかない自分を知り、コントロールしたいと思っていました。

ところが、冒頭で無事卒業と述べましたが、4年間で卒業することができず、半年間留年してしまいました。マネジメントを学びながら、自分をマネジメントできなかったことは、お恥ずかしい限りです。

しかし、自己責任・自己管理により、仕事やその時々に関心・興味のあることにも挑戦しながら、自分で選択した科目を自分のペースで学習し、単位を取得して、自分のスケジュールで卒業できるのが通信教育のメリットであると思います。

産能では、20科目(40単位)のスクーリングを受講しました。本学での週末を中心とした朝から夕方までみっちり3日間の面接授業は大変でしたが、通信教育のみでは得がたい、いろいろなものを得ることができました。

私は、今年の4月から産能入学当初からの目標どおり、大学院へ進学することができました。現在、地元の長岡技術科学大学 専門職大学院 技術経営研究科 システム安全専攻の学生として、土日を中心に自宅から車で15分程度の距離を通学して、学んでいます。

今後も「単なる学術の習得のみに終わらず 広く世界に目を向け ほかの意見を尊重し 自分をいつわらない誠実な人格の形成に努力する」という本学建学の精神を胸に刻み、微力ながらも地域・社会に貢献していきたいと思っています。

『意欲ある農業経営者への挑戦』

佐渡市 本間 進

私は自動車の専門学校を卒業後整備業界で自動車の整備士として勤務してきました。

しかし、父も初老の年代となり父が苦労して築いてきた農業の基盤を父の代で終わりにするのはとてももったいないと感じ、そして何より自分の采配で成功へ導くことはできないかと考えるようになりました。

父が今まで築いてきた経験と経営資源をもとになんとか農業で成功したい、経営者になる以上経営の知識は絶対不可欠と思い、整備士として働きながら大学へ通いました。

大学での出会いは、色々なものがありました。キャリアアップのため、あるいは大学を卒業して新たな分野で挑戦したい方々は仕事をもち、休みを削って大学へ通っています。スクーリングに通うたびに自分もがんばらなければいつも元気と勇気ももらってきました。

今現在の農業を取り巻く環境はかつてないくらい厳しい状況です。しかしそのなかでも成功されている方はいます。

今現在はお米の生産・販売のみですが、今後は無農薬の栽培にも取り組んでいく予定です。自分が今まで積み重ねてきたものを最大限に活用し今後の農業の発展に貢献していきたいです。



奥様と誕生したばかりのお子さん